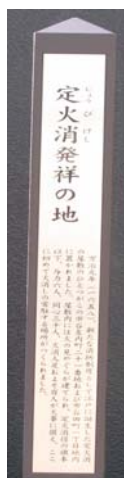


牛込は定火消発祥の地

万治元年（1658年）、新たな消防制度として江戸に四つの定火消の屋敷が誕生し、その一つが、現在の市谷左内町21番地から市谷田町一丁目地内にかけての左内坂に置かれました。屋敷内には火の見やぐらが建てられ、定火消役の旗本以下、与力6人、同心30人、火消人足およそ100人が火事に備え、ここに初めて火消しの常駐する場所がつけられました。



定火消発祥の地標柱





定火消標柱建立を記念しての演習の様子